

令和六年二月度御講 唱法華題目抄

(御書二三一六九行目〜二二行目)

【本文】

末代には善無き者は多く善有る者は
少なし。故に悪道に墮せん事疑ひ無し。

同じくは法華経を強ひて説き聞かせて

毒鼓の縁と成すべきか。然れば法華経

を説いて謗縁を結ぶべき時節なる事諍

ひ無き者をや。

【通釈】

末法には善(妙法の下種)を受けて
いない者が多く、善を受けた者は少な
い。故に(ほとんどの者が)悪道に墮
ちることは疑いない。同じく(悪道に)
墮ちるなら法華経を強ひて説き聞かせ
て毒鼓の縁を結ばせるべきである。さ
れば(末法の今の時は)法華経を強
いて説き、謗らせて縁を結ばせる時節で
あることは、争う余地はないのである。

【主な語句の解説】

善：道理に適った善いこと。ここでは、久
遠元初本因下種の妙法という根本の仏乗種
を指す。
毒鼓の縁：毒鼓とは毒を塗った太鼓のこ
と。その音を耳にしただけで死に至るとい
う、涅槃経(大正蔵二二一四一〇)の譬喩。
強いて法華経を説くとき、聞信しようとし
ない衆生は正法を謗ることになるが、その
ことでもかえって正法との縁を結ぶこと。
謗縁：正法を誹謗することによって法縁を
結ぶこと。

【背景と大意】

本抄は、文応元(一二六〇)年五月二十八日、日蓮大聖人が三十九歳の御時に、鎌倉の名越において著わされた御書です。御述作の一カ月半後、大聖人は『立正安国論』を北条時頼に奏呈し、一回目の国主諫暁をされました。

本抄は十五の問答から構成され、当時流布していた念仏の教えと法華経とを比較して、権実相対の上から勝劣と正邪を明らかにし、法華経が唯一の正法であることを示し、その法華経の題目を唱えることが成仏の要道であると説いています。修行の根幹である唱題の功德など、重要な法義が説かれており、日興上人が御書十大部の一書として挙げられています。

本日拝読の御文は、第十三の問答において、「毒鼓の縁」を通じて折伏の重要性を説かれた所です。

○妙法蓮華経の五字を唱ふる功德莫大なり

大聖人は本抄に、「妙法蓮華経の五字を唱ふる功德莫大なり」(御書二三〇)と仰せです。これは、お題目の功德が考えも及ばない、勝るものなきことを示されているのです。

現在、私達が日々唱える題目について、総本山第六十七世日頭上人は「この題目こそ、末法に宗祖大聖人が弘通し給う本門の題目であり、また、末法の我等一切衆生が本門の本尊を信じて唱うる題目であります（中略）我等の唱える題目は御本仏の唱え給う題目と、寸分の違いもないのであります。本当に有り難いことであります」（大日蓮・平成六年五月号）と述べられ、御本仏と同じ修行をさせていただいているのだという、大変尊く深い意義を明かされています。

第二十六世日寛上人は、「たとへ授戒候とも本尊なくば別して力も有まじく候」（福原式治殿御返事）と仰せになられ、御本尊を安置して修行に励むことの大事を指南されています。

御本尊に向かって、お題目を唱えると、その功德によって充実した毎日を送ることができると実感されているはずですから、内得信仰の方は一日も早く我が家に御本尊をお迎えし、日々の信行に努め、揺るぎない幸福な人生を築いてまいりましょう。

○強い一念で、根気強く折伏を

末法の衆生は、過去世に真の仏縁がなく、成仏のための仏種を具えていません。したがって『教行証御書』に、「当世の逆謗の二人に、初めて本門の肝心寿命品の南無妙法蓮華經を以て下種と為す」（御書一〇四）と仰せのごとく、末法の御本仏・日蓮大聖人によって成仏の要諦である妙法の下種を受ける必要があるのです。

折伏によって妙法の下種を受けた衆生は、ただちに妙法を信じて仏縁を結ぶ順縁の人と、信受することができずに誹謗し、その悪業がかえって仏縁となる逆縁の人とに分かれます。逆縁の人は、不信謗法の罪によって地獄に堕ちて苦悩しますが、ひとたび妙法に縁したことによって、いつか必ず成仏することができます。

よって拝読の御文に、「**法華經を強ひて説き聞かせて毒鼓の縁と成すべきか**」と示されるように、たとえ相手が素直に信受できなくても、謗法をきちんと破折し、正法を説き示し妙法受持を勧める、破邪顕正の折伏を行っていくことが最も大切です。私達は、どのような相手に対しても、ためらうことなく折伏を実践していくべきです。相手の方がこちらの話に耳を傾けてくれないからといって、早々に諦めてしまつてはいけません。それは無慈悲というものです。折伏は「なんとしても救いたい」との強い一念で、根気強く継続しましょう。

○日如上人御指南

相手がかたくなに反対しても、そのあと相手の心境が変わって入信に至ることはよくある話であり、折伏の縁を断ち切るのではなくして、根気よく折伏を続けていくことが大事であります。

（大日蓮・平成三十年五月号）

今月は、日蓮大聖人御聖誕の月です。大聖人は末法の御本仏として妙法を説かれ、一切の人々に即身成仏という幸福境界をもたらし、世の中を清浄・安穩ならしめるために御出現されました。そして世の中の不幸や苦悩の原因が誤った思想や宗教にあることを教えられ、正法受持の大事を説かれたのです。申すまでもなく、広宣流布は大聖人の御遺命であり、日蓮正宗七百七十年の悲願として、私達大聖人の弟子・信徒が片ときも忘れてはならない大目標です。大聖人の御意を我が心として、前進させていくことが肝要です。